

R6 キャリア教育シンポジウム

「夢をつなぎ志を育み よりよく生きようとする子どもの育成」
～ 肯定的で対話的な関わりを通して ～



壮行会



生徒総会



体育祭

令和6年8月2日(金)
棚倉町立棚倉中学校



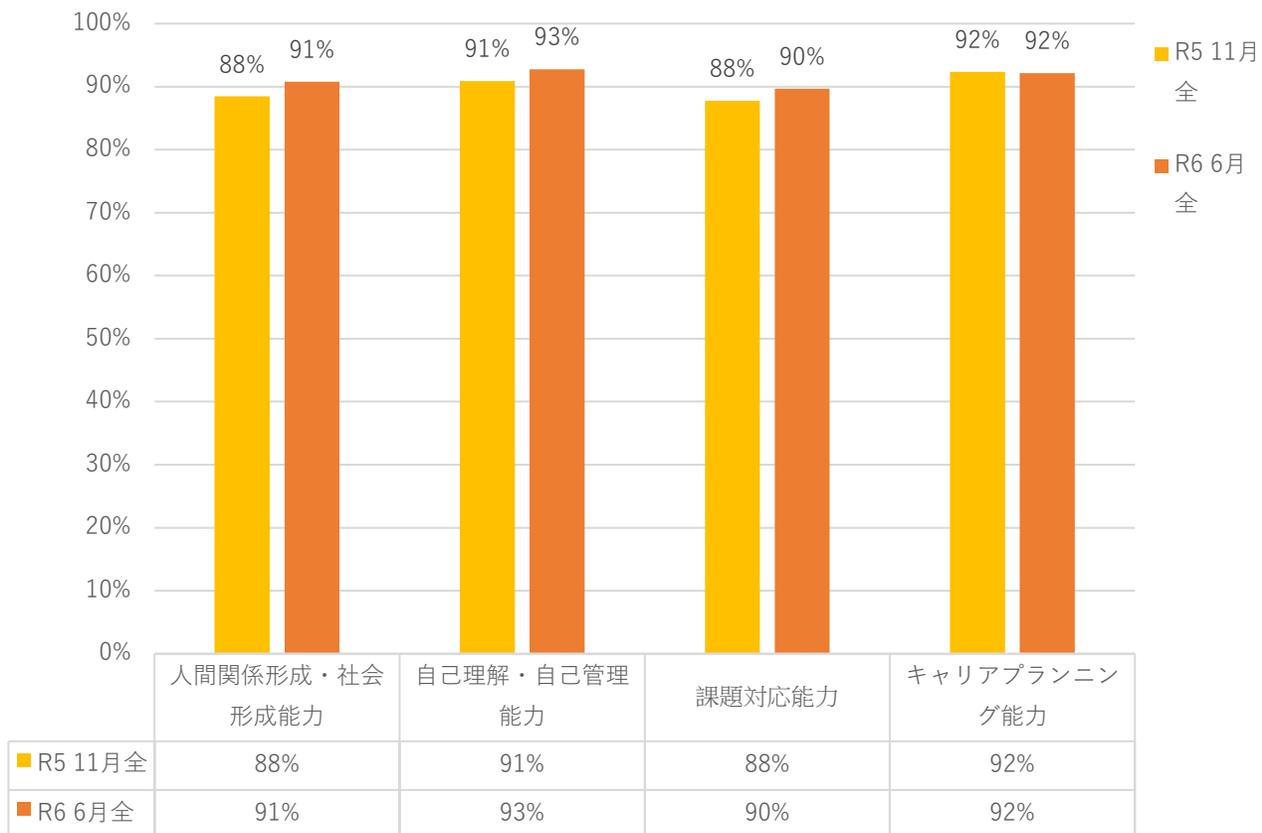
本校の実態

16学級

364名

教育目標 「未来を見つめ自ら考え行動できる生徒」

基礎的・汎用的能力に対する意識の変容



・ R5.11月 – R6.6月比較

※ R5.11月は小6・中1・中2のデータ

- ・ 11月からの変容として、有意な差は見られない。
- ・ 各項目とも肯定的な意見がほとんどである。

キャリア教育意識調査から

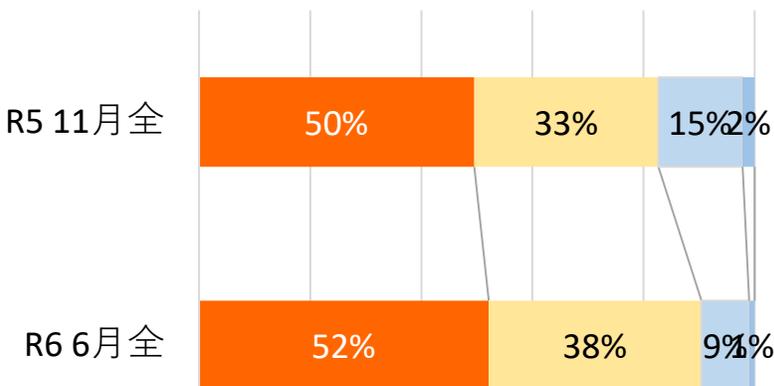
(肯定的な意見が多い項目)

- 1 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- 3 人が困っているときは、進んで助けている。
- 5 自分の長所は、さらにのばそうとしている。
- 6 自分で決めたことは、やりとげるようにしている。
- 7 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- 9 知りたいことがあった時、調べたり、人に聞いたりしている。
- 1 2 何事にも、自分で考え、自分から取り組むことが大切だと思う。
- 1 4 夢や目標を達成するために、努力していることがある。
- 1 5 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。
- 1 6 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。

キャリア教育意識調査から (上昇した項目)

4 話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる

0% 20% 40% 60% 80% 100%

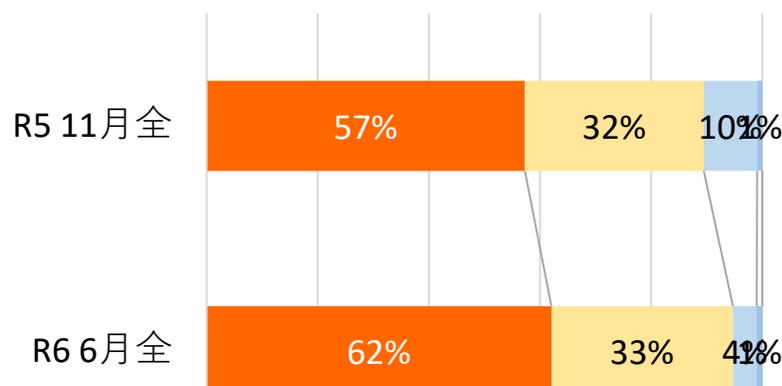


- している
- どちらかといえばしている
- あまりしていない
- していない

83% → 90%
+ 7%

5 自分の長所は、さらにのばそうとしている

0% 20% 40% 60% 80% 100%

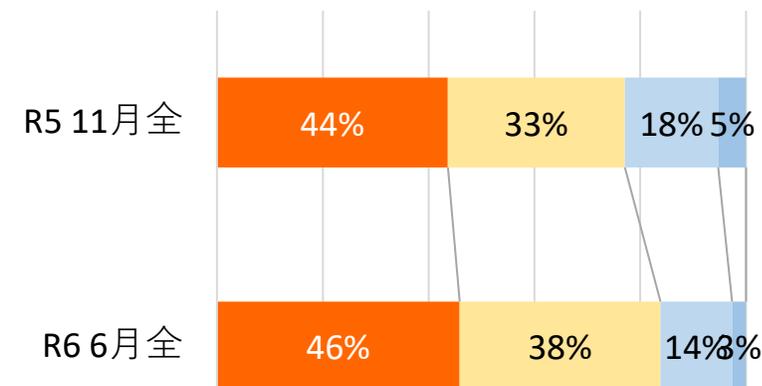


- している
- どちらかといえばしている
- あまりしていない
- していない

89% → 95%
+ 6%

11 勉強をするとき、自分で考えて計画を立てている

0% 20% 40% 60% 80% 100%



- している
- どちらかといえば、している
- あまりしていない
- していない

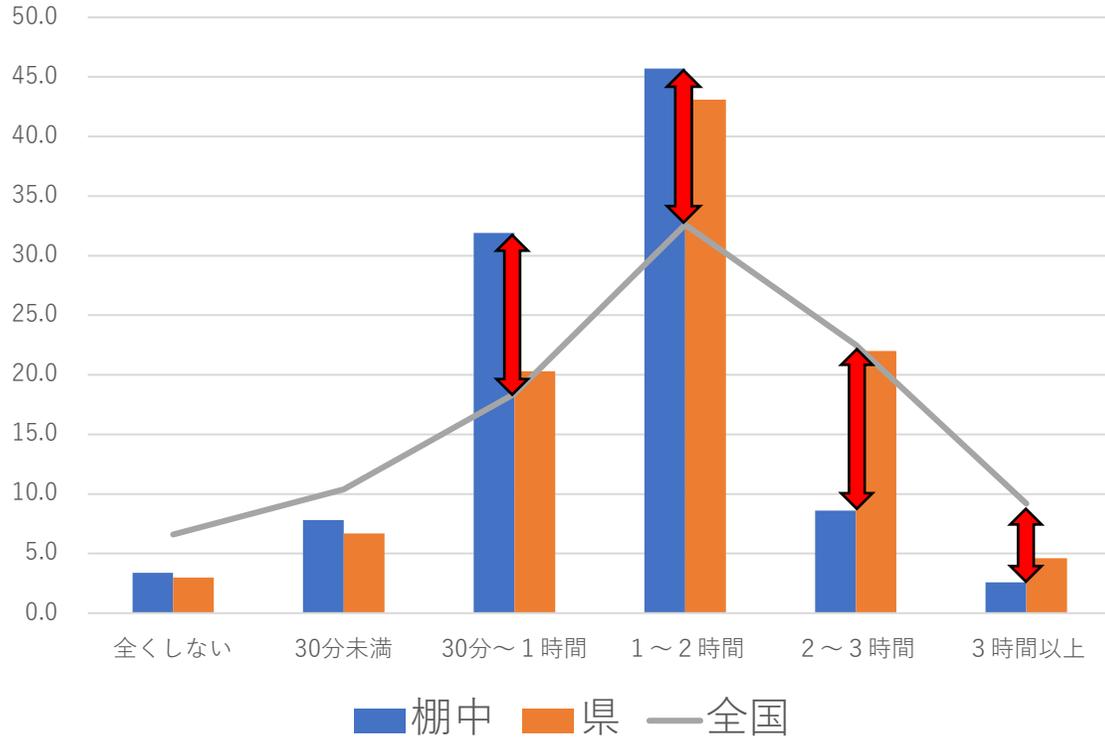
77% → 84%
+ 7%

キャリア教育意識調査から

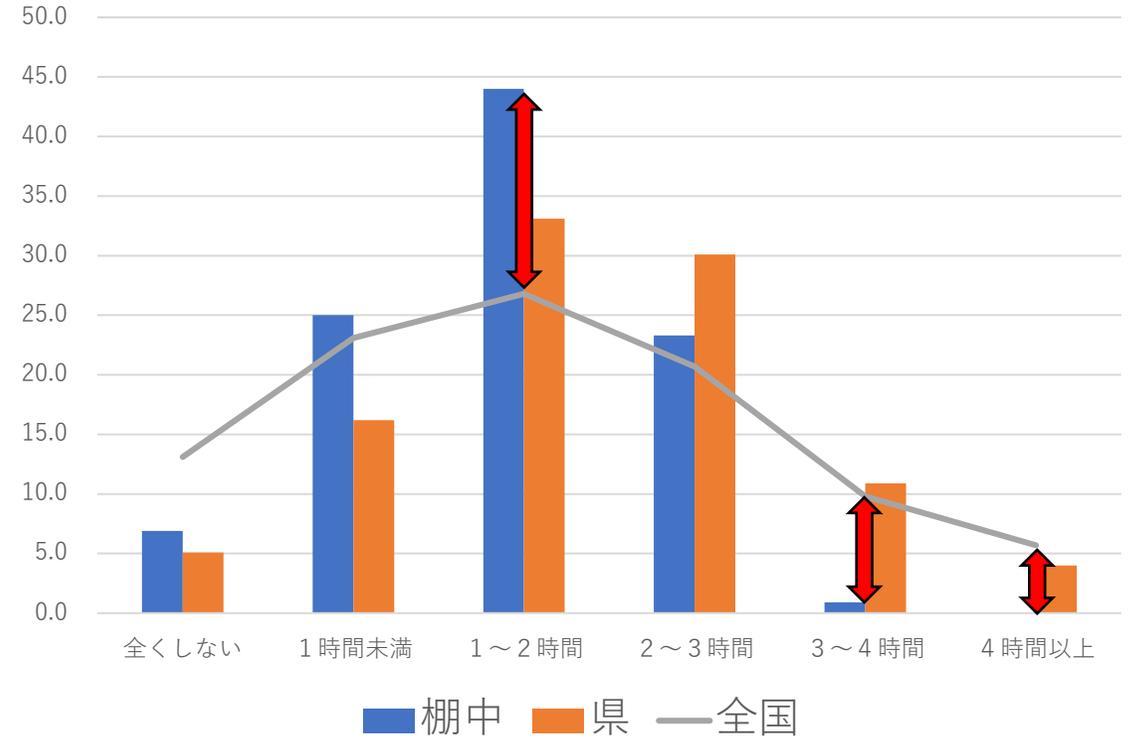
- ➡ 下降した項目に関しては、R5 11月とR6 6月の比較では有意差がある部分はなし
- ➡ 2 地域や社会を良くするために何をすべきか考えているの項目では、肯定的な意見が少ない。
- ➡ 平日の学習時間が、1時間未満は25%。
休日の学習時間が、1時間未満は27%。
1日のスマホ等の利用が1時間以上は81%。
学習時間が短く、スマホやタブレット等を使用している時間が長い。

R6 全国学力・学習状況調査から

普段の学習時間（R6全国学調より）



休日の学習時間（R6全国学調より）



全国・県と比較して、平日・休日ともに学習時間が少ない

本校の実態

生徒の実態（キャリア教育意識調査・ふくしま学調・全国学調より）

- 将来の夢をもっている生徒が多い。
- 人の役に立ちたい、困っている人を助けたいという**他者への思いやり**をもっている。
- 自分で決めたことをやり遂げたり、自ら考え取り組んだりすることが大切だと考えている一方で、**実際にそれらを実行に移すことが苦手**である。
- やることははっきりしている学習や、与えられた課題には熱心に取り組むことができる一方で、**自ら学ぶことや、学んだことを次の学習に活かすことが苦手**である。
- ▲自分の**長所を伸ばしたり**、夢や目標のために**努力したり**していると考えている生徒がほとんどだが、全国や県と比較すると**家庭学習の時間が短い**。
- ▲地域や社会を良くするために何をすべきか考えている生徒が少ない。
- ▲勉強する際に、学習のやり方を工夫したり、**これまでの学習との関連**を考えて取り組んだりすることが苦手である。



日輪祭



立志式

令和6年度の実践について

1 キャリア教育の一層の充実

- ・学級活動（1）【学級会】の実践 **心理的安全性**の高い集団作り
- ・**四半期ごとの目標設定・振り返り**の実践
 - ⇒ 毎日の振り返り、目標の意識を重視 **フォーサイト手帳**との連動

2 上記に伴う各教科の授業の充実 学力向上

- ・16の技法の実践
- ・「**価値付け**」「**つながぎ**」「**語らせる**」 各教科の授業でも実践
 - ⇒ 教師のコーディネート力を高めていく

3 総合的な学習の時間 以下の2つを柱に課題探究学習を推進

- ・「**なりたい自分**」に向けての自己の生き方を探究する学習
- ・“防災”をテーマとした**社会の一員としての生き方・関わり方**を探究する学習

令和6年度の実践について

心理的安全性の高い集団作り

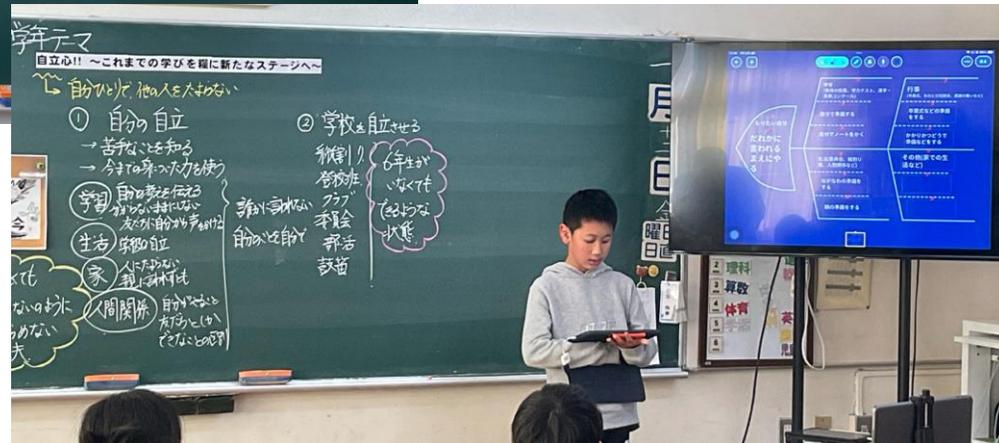
四半期ごとの目標設定・振り返りの実践

○ 小中連携の視点から → 小学校の実践から学ぶ

R5 棚小 第3四半期の振り返りと第4四半期の目標設定

R6 棚小 第1四半期の目標設定

近津小 第1四半期の振り返りと第2四半期の目標設定



令和6年度の実践について

心理的安全性の高い集団作り

四半期ごとの目標設定・振り返りの実践

○ 目標の「見える化」・「意識化」

	第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月	第3四半期 10月～12月	第4四半期 1月～3月
1年	「切磋琢磨」自分を磨き、仲間と高め合おう			
	自己理解・自己管理能力	人間関係形成・社会形成能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
	中学校の生活に慣れ、小学校で伸ばした力を中学校でも発揮する	クラスや委員会、部活動等で状況に応じた態度、言葉遣い、伝え方で他者と積極的に関わる	様々なアイデアから最適な方法を選択し、互いに高め合いながら、解決する	「なりたい自分」に見える化し、自分の将来を想像する
2年	「全力挑戦」思い・考えを言葉・行動にしよう			
	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
	「全力コミュニケーション」自分から部活の後輩や新学級の仲間と全力でコミュニケーションをとる。(気づく・伝える・聞く)	「全力表現」失敗を恐れず全力で自分を表現する。(挙手・返事・発表・反応)	「全力解決」自分や集団の課題を全力で解決する。(原因と解決手段を考える・話し合う・試す)	「全力進化」理想の自分に向けて全力で進化する。(分析・実践・比較・改善)
3年	志に向かって前進			
	人間関係形成・社会形成能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力	自己理解・自己管理能力
	学級や部活動など自分が所属する集団において、互いの立場を理解し良い集団にするためのコミュニケーション活動ができる	自己や集団の目標達成のために、様々な情報の理解と選択から、計画と実行ができる。	自己の将来を見据えた進路選択と進路実現へ向けたPDCAができる。	自己や集団の目標達成のために、課題に対して粘り強く取り組み、前向きで元気に生活できる。

令和6年度の実践について

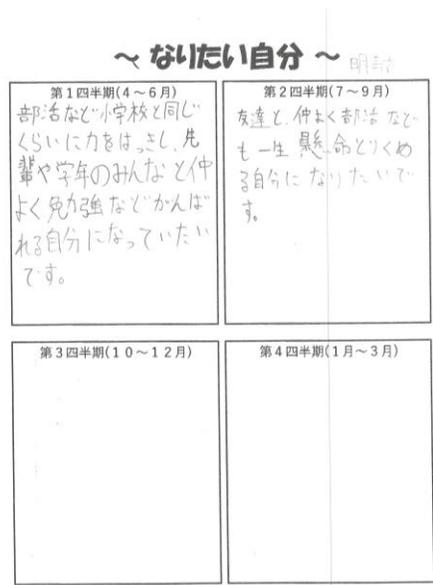
心理的安全性の高い集団作り

四半期ごとの目標設定・振り返りの実践

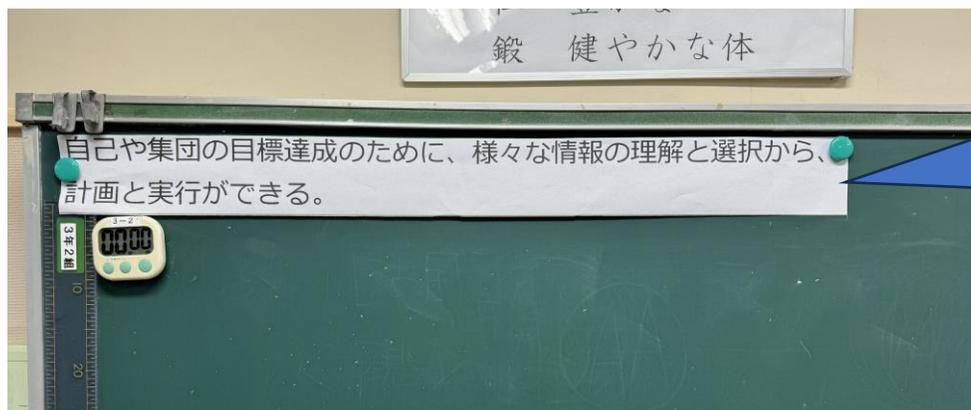
- 目標の「見える化」・「意識化」



各学年の四半期ごとの目標を掲示



フォーサイト手帳には自分が立てた目標を書いて、いつでも目につくように



黒板にその四半期の目標を掲示

令和6年度の実践について

心理的安全性の高い集団作り

四半期ごとの目標設定・振り返りの実践

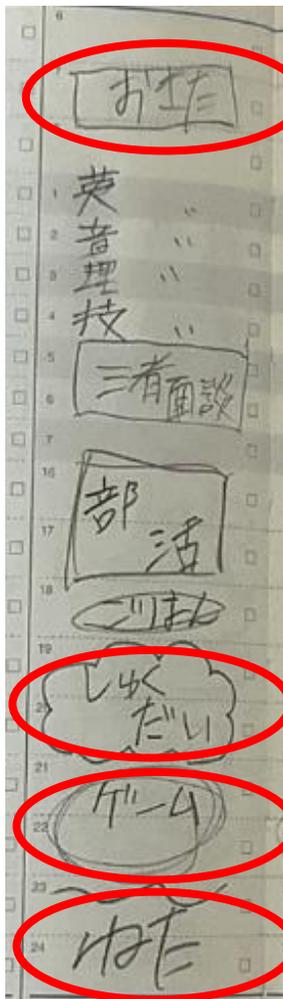
- 毎日の振り返り、目標の意識を重視 **フォーサイト手帳との連動**

オンライン研修を実施

- LEVEL 1 記録型
- LEVEL 2 計画型
- LEVEL 3 課題解決型



朝の短学活前に5分
フォーサイト手帳記入の時間を位置付け



起きた時間
学習した時間
SNS・ネット・ゲームの時間
寝た時間

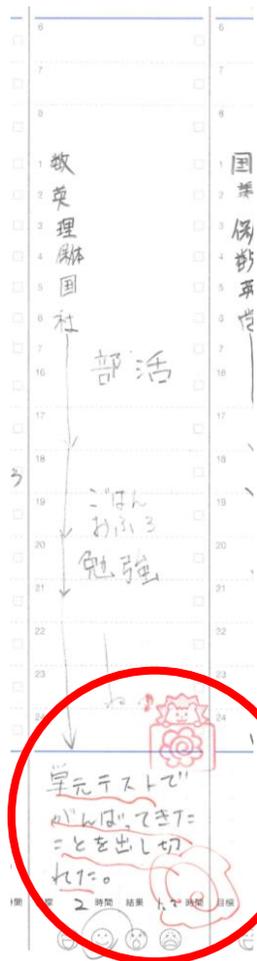
記録→振り返り

令和6年度の実践について

心理的安全性の高い集団作り

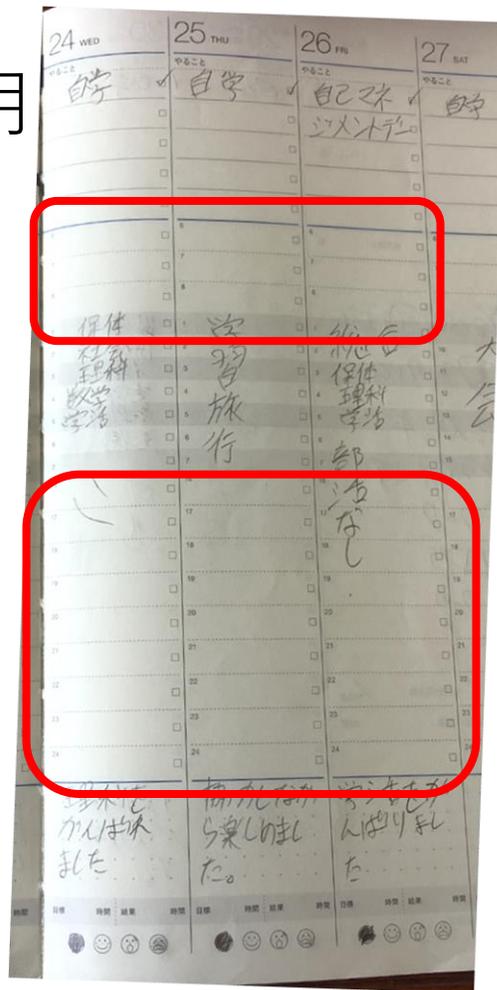
四半期ごとの目標設定・振り返りの実践

○ 毎日の振り返り、目標の意識を重視 フォーサイト手帳との連動

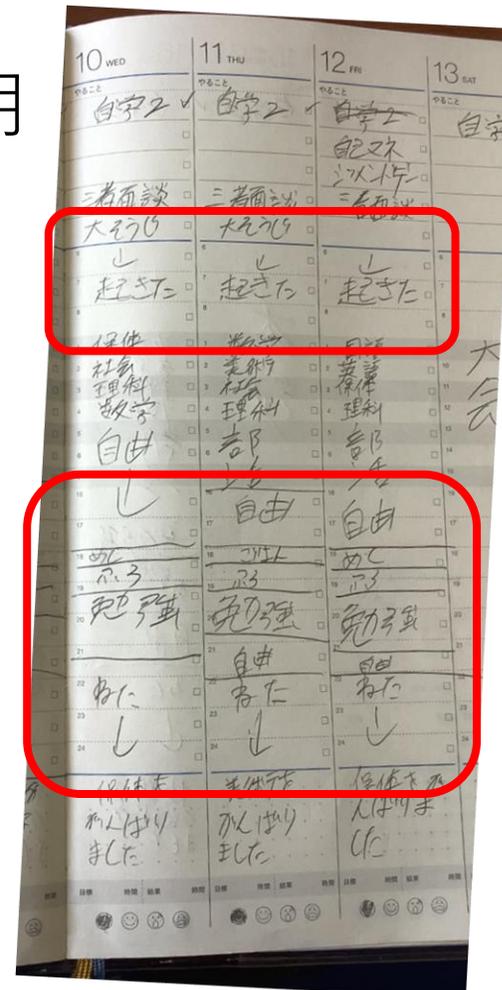


朝の記入の時間に
机間指導・関わっている

4月



7月



令和6年度の実践について

心理的安全性の高い集団作り

四半期ごとの目標設定・振り返りの実践

- パイオニア授業（1年2組 第1四半期の振り返りと第2四半期の目標設定）



令和6年度の実践について

心理的安全性の高い集団作り

四半期ごとの目標設定・振り返りの実践

- 学校全体で、第1四半期の振り返りと第2四半期の目標設定の授業



令和6年度の実践について

心理的安全性の高い集団作り

四半期ごとの目標設定・振り返りの実践

○ 四半期ごとの目標設定・振り返りの実践

成果

- ・ 教師が生徒を見とったことを価値付けたことによって、語らせることへの自信につながっていた。
- ・ 一人一人が意見を述べるときに、教師の復唱や周りの生徒に共感させるようつなげたことで、心理的安全性が高まっていた。
- ・ 生徒に話す機会を意図的に作り、語らせている場面があった。
- ・ 生徒同士も肯定的に関わることができていたため、どの生徒も語ることができていた。そのことによって、心理的安全性が高まっていた。



令和6年度の実践について

心理的安全性の高い集団作り

四半期ごとの目標設定・振り返りの実践

○ 四半期ごとの目標設定・振り返りの実践

課題

- ・ 教師対生徒のやりとりをきっかけとして、生徒同士の「つなぐ」になっていくようにコーディネートしていきたい。
- ・ 目標を立てたら、その目標に込めた思いを共有させた方がいい。
- ・ もっと生徒に話させる必要がある。生徒に「語らせて」ストーリーがぐちゃぐちゃになってもいい。それを引き取って整理するのが、教師の役目。
- ・ 「良かった」や「協力できた」と単語で答える生徒に、「何が良かった?」「どんな協力をした?」と投げかけることで、センテンスで答えられるようになる。



令和6年度の実践について

心理的安全性の高い集団作り

四半期ごとの目標設定・振り返りの実践

- 四半期ごとの目標設定・振り返りの実践

課題

- ・ 学年目標と、生徒が立てた目標がずれている。

学年目標
状況に応じた言葉づかいで、自分の思いを伝えることができる。

なりたい自分の姿
メリハリをつけられる自分

学習	生活	行事	部活動
実力・リテラシーに向けて 自分で勉強をしたい。 わからないところは先生に聞いてほしい。 リテラシー対策をしたい。	常に自分ができることがないか？がすの意識して生活したい。	田輪祭実行委員として自分の仕事をしっかりとこなしていきたい。	3年生がぬけても新しいチームとして自分もチームの戦力になれるようにがんばりたい。

振り返り

学年目標
状況に応じた言葉づかいで、自分の思いを伝えることができる。

なりたい自分の姿
挑戦者になれる自分

学習	生活	行事	部活動
努力しつづける。 自分が満足できる結果になるようにがんばる。	だ木にでもあいさつをする。 糸冬わりのあいさつや、お台めのあいさつを大きな声でする。	ちゅうしほんほにやらずに全力で取りくむ。	せんはいのように強くなるために、沢山系練習する。

振り返り

令和6年度の実践について

心理的安全性の高い集団作り

四半期ごとの目標設定・振り返りの実践

○ 四半期ごとの目標設定・振り返りの実践

今後の実践へ向けて

- ・ 「価値付け・つなぎ・語らせる」ための教師のスキルアップ。
- ・ キャリアパスポートのますますの充実。（書かせ方の指導）
- ・ 十人十色の「なりたい自分」がある中で、学年目標をどのように取り扱っていくか、検討が必要。

1. ツールを活用した日常的な見取りと対話

○見通しのポイント：5W1Hで物語をつくる

キャリア・パスポート ～なりたい自分～

()年生 第 四半期 (~ 月) **いつ (When)**

だれが (Who) 組 番 氏名 ()

学年目標

教師の願い：重要だが、**「なりたい自分」を拘束しない**

なりたい自分の姿

なぜ (Why)、どんな (What) 自分になりたいか

学習

生活

行事

部活動

どの場面で (Where)

どのように (How) を意識した具体的な行動

振り返り

令和6年度の実践について

「価値付け」「つなぎ」「語らせる」 各教科の授業でも実践

【価値付ける】

生徒の考え（ノート記述、つぶやき、発言など）の中にある**各教科の見方・考え方を見出し評価・称賛し**自覚させる。

【つなぐ】

小学校での学習内容を含め、**前学年までの学びとつなぐ**（統合）、**今後学習するであろう内容とつなぐ**（発展）。さらには、**今の学びを社会や、各生徒のキャリア形成とつなぐ**（主体的な学び）。また、学び合いの中では、共通点・相違点を明らかにして**自他の考えをつなぐ**。

⇒「対話において肯定的に関わる技法」も参照

【語らせる】

思考の言語化を図る。言語化によって、漠然として捉えどころのないものが、自分自身で整理され、客観的、具体的になり、自ら扱うことができるようになる。

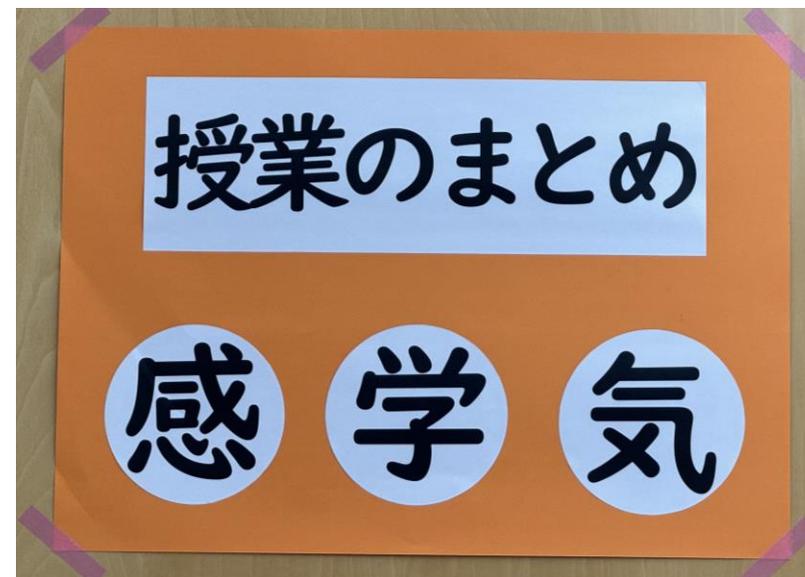


令和6年度の実践について

「価値付け」「つなぎ」「語らせる」 各教科の授業でも実践

○ 数学科、小玉先生の記録から

- ・ () をはずせば同類項をまとめることができると**類推的に考えられていた姿を称賛**しました。
- ・ 多項式の展開で学習した「多項式を1つの文字に置き換える」ことを想起し、例題と同じ形にすることができました。使える**既習事項を使おうとする数学的な見方・考え方がすばらしい**です。
- ・ 1年生で学習した「減法を加法に変えてそのあとの符号を変える」を使っていること、分配法則を用いるとその理由が説明できることを確認しました。**学びをつなぐ配慮が効果的でした。**
- ・ 1年生の学習で身につけた力が無意識のうちに使われていることを、**教師が「価値付け」たことによって学びの「つながり」を意識させる**ことができました。



令和6年度の実践について

「価値付け」「つなぎ」「語らせる」 各教科の授業でも実践

○ 理科、単元末の振り返りから

どのような知識・技能を活用した？ どのような対話で解決することができた？
どのようなことに気づいた？ 新たにどのような課題をもった？

小学校の学習を活用することができたし、
分類するときは比較が大切だと思った

花には、雌花と雄花の違いしかないと思っていたけど、
他にも様々な違いで分類できることに気がついた。
そしてこの学習を通して、同じ観点ばかりでみるのではなく、他の
の観点到注目することが大切だと思った。

小学校で習ったひまわりやアサガオヘチマなどの性質とかが
中学校にもつながっているのがわかった。
新たに色々な性質の植物についてよくわかった。
次の理科でも生かして行きたいです。

この学習を通してどのような知識をを活用したかという、小学校で
習った学習が全てつながっていたので小学校で習ったやつ以外で7つの
言葉をお覚えられたのでこれを次の学習につなげたいです。

- 話し合いながらできた。
- みんなの意見を取り入れながら、1番いい意見を出せて
たと思う。

- 小学校で習った根、茎、葉の作りを活かして中学校でも発言をしっかりと出来た。
- 自分が考えていなかった考えがグループで話したことによって出てきて結論に繋げられた。
- 種子がない植物はないと思っていたけれど胞子で育つ植物があるという発見もあってグループで話す
ことで色々な考えが出てくるからグループで話すことは大切だと気づいた。
- さらに花粉と胞子の作りを調べて具体的にどのような相違点があるのか調べたいという課題を持っ
た。

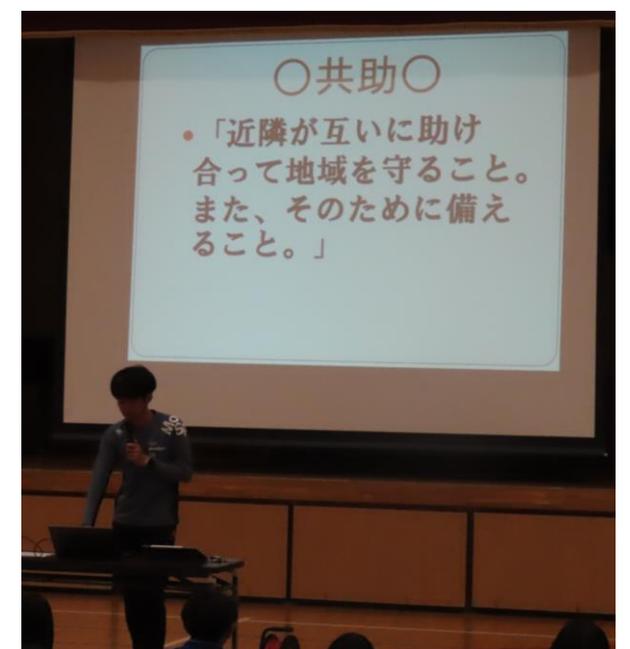
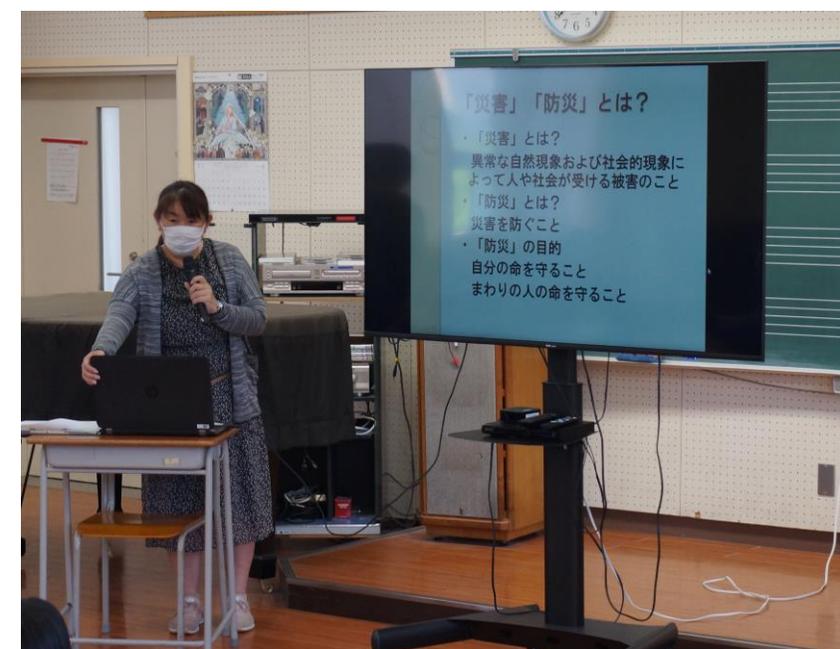
みんなの考えた意見を出しあう。その他の人の
意見を理解しようとした。

令和6年度の実践について

総合的な学習の時間

“防災”をテーマとした**社会の一員としての生き方・関わり方**を探究する学習

- 1 学年：震災体験を見聞き、理解を深めることで自分ごとと捉え、「**自助**」のあり方を探求的・体験的な活動を通して、推察・調査・分析・考察を行い、まとめ、地域に発信。
- 2 学年：過去の災害から学びながら、「**共助**」のあり方を探求的・体験的な活動を通して、推察・調査・分析・考察を行い、まとめ、地域に発信。
- 3 学年：地域のために貢献できることを自ら考え、「**公助**」のあり方を探求的・体験的な活動を通して、推察・調査・分析・考察を行い、まとめ、地域に発信。



2 学期以降の実践に向けて

- 「価値付け・つなぎ・語らせる」手法のレベルアップ。
- キャリアパスポートの書かせ方について、研修→実践。
- 四半期の振り返りと目標設定の授業について、中学校としての在り方の検討。
- 「価値付け・つなぎ・語らせる」ことや、今の学びを社会や、各生徒のキャリア形成とつなぐことで、夢や目標に向かってより努力できる生徒の育成。
- 総合的な学習の時間の「防災」に関して、地域の中での生徒自身の役割を考えさせながら実践→日輪祭で発表。

ご清聴
ありがとうございます
ございました